

戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

戦略企画会議第四委員会「政策提言活動と啓発活動」の活動報告

はじめに

令和3年より戦略企画会議第四委員会の委員長を拝命した日本眼科学会常務理事の杉山和久と申します。第四委員会の使命は、政策提言活動や啓発活動を通して、国民、行政および医療界における、眼科医療および眼科学のプレゼンスを向上させ、それをもって視覚に関する健康・医療・福祉に貢献することです。長期的な目標として、①国の健康医療戦略へ感覚器(視覚)に関する政策を盛り込み、感覚器疾患対策基本法の成立、感覚器(視覚)大型研究事業の立案、診療報酬の改善等につなげること。②迅速かつ適切な広報活動のための組織体制を整備し、メディアの有効活用により、視覚情報とこれを与える眼科学の重要性を国民に対して啓発すること。③行政から適正な評価を得て、診療報酬の改善を図ること。④優秀な医学生や研修医を積極的に確保し、眼科医の増加を図ること、を挙げています。

戦略企画会議第四委員会で提案し決定した内容は主に、日本眼科学会と日本眼科医会、眼科関連団体から構成される日本眼科啓発会議(以下、啓発会議)で立案・実行しております。啓発会議は3つの分科会、すなわち第一分科会：広報事業、第二分科会：政策提言事業、第三分科会：学生・研修医啓発事業を設置しており、第四委員会メンバーは各分科会の委員としても事業活動に参加しています。

本稿では、コロナ禍の下、Webを活用して進めてきた最近の活動について報告したいと思います。

1. 本委員会の構成

委員長：杉山 和久(常務理事)

副委員長：井上 幸次(理事)、外園 千恵(常務理事)、辻川 明孝(常務理事)

委員：門之園一明(横浜市大)、瓶井 資弘(愛知医大)、村田 敏規(信州大)、野中 隆久(日本眼科医会)、平塚 義宗(日本眼科医会)

2. 眼科学のプレゼンスの向上

眼科医療および眼科学のプレゼンスを向上させるために、行政や感覚器の他領域関係者が参画し、感覚器からの情報が脳機能(認知、情動など)や全身機能にとって重要であることを示すため、第125回および第126回日本眼科学会総会において下記シンポジウムを企画しました。

第125回日本眼科学会総会シンポジウム「他分野の研究から学ぶ」

オーガナイザー：西田 幸二(大阪大学)、飯田 知弘(東京女子医科大学)

1. 「COVID-19感染症に対するワクチン開発の現状」

森下 竜一(大阪大学・臨床遺伝子治療学寄附講座)

2. 「実用化を目的とした再生医療の現状と課題」

畠 賢一郎(株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)

3. 「健康経済学の医療への応用」

後藤 励(慶應義塾大学・経営管理研究科)

第126回日本眼科学会総会シンポジウム「未来を創る研究—若手研究者へのメッセージ」

【総会長枠と戦略企画会議第四委員会枠との合同シンポジウム】

オーガナイザー：西田 幸二(大阪大学)、瓶井 資弘(愛知医科大学)

1. 「アバターと未来社会」

石黒 浩(大阪大学・先導的学際研究機構共生知能システム研究センター)

2. 「免疫研究と臨床応用～神経－免疫代謝連関の話題も含めて～」

熊ノ郷 淳(大阪大学・呼吸器・免疫内科学)

3. 「多臓器創生への展望」

武部 貴則(東京医科歯科大学・統合研究機構)

3. メディアを活用して眼科学の重要性を啓発(日本眼科広報委員会と記者懇談会)

前述のとおり、迅速かつ適切な広報活動のための組織体制を整備し、メディアの有効活用により、視覚情報とこれを与える眼科学の重要性を国民に対して啓発することが本委員会の使命の一つです。日本の眼科医療の先進性、quality of lifeに占める視覚情報の重要性を社会に広報するため、日本眼科医会と共同で日本眼科広報委員会を設置して、下記の記者懇談会を企画しました。参加していただくメディア数も増えてきており、その内容は各種媒体で発信されています。今後もメディアへの情報発信をタイムリーに行い、視覚情報と眼科学の重要性を国民に向けて啓発していきたいと考えています。

第18回日本眼科記者懇談会

日 時：2021年5月27日(木)18:30～20:00

場 所：Web開催(Zoom ウェビナー)

テーマ：「視覚障がい者ケアとパラリンピックの遺産(レガシー)」

◇「パラリンピックと視覚障がい者ケア」

河合 純一(日本パラリンピック委員会)

◇「視覚障がい者の安全な移動」

原田 敦史(堺市立保健福祉プラザ視覚聴覚障害者センター)

◇「視覚障がい者とクイック・ロービジョンケア」

辻 拓也(久留米大学)

第19回日本眼科記者懇談会

日 時：2021年9月30日(木)18:30～20:00

場 所：Web開催(Zoom ウェビナー)

テーマ：「アイフレイル～目の健康寿命をのばそう～」

◇「国家戦略としての“フレイル”予防、そして“アイフレイル”との関わり」

飯島 勝矢(東京大学・高齢社会総合研究機構)

◇「アイフレイル対策活動のコンセプト」

辻川 明孝(京都大学)

◇「あなたもアイフレイル？セルフチェックしてみましょう」

加藤 圭一(日本眼科医会/かとう眼科医院)

◇「気づきにくい眼の病気：「アイフレイル」で早期発見」

平塚 義宗(日本眼科医会/順天堂大学)

第20回日本眼科記者懇談会

日 時：2022年1月20日(木)18:30～20:00

場 所：Web開催(Zoom ウェビナー)

テーマ：「デジタル時代の子どもの眼」

◇「STOP！弱視見逃し：3歳児眼科健診に屈折検査を」

柏井眞理子(日本眼科医会/眼科柏井医院)

◇「ICT教育とGIGAスクール構想の中で眼の健康を守るには？：啓発マンガ「ギガっこ デジたん!!」

丸山 耕一(日本眼科医会/川添丸山眼科)

◇「デジタル端末使用の影響：急性後天共同性内斜視とは」

佐藤 美保(日本弱視斜視学会/浜松医科大学)

4. 「アイフレイル」をキーワードにした啓発活動

「アイフレイル」をキーワードとして視覚情報の重要性を国民や行政に対して啓発し、視覚障害により日常生活が制限される人、人生の楽しみや快適な日常生活が制限される人を減らすことを目指しています。政府は「人生100年時代構想」を掲げ、また厚生労働省は「国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向」の中に「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」などを挙げています。眼科医は、健康で楽しい人生100年を送るために、そして健康寿命の延伸のためには視機能が重要な役割を担っていることを理解しています。視覚障害の予防、早期発見を促すためにも、政策提言をしていくためにも、視覚情報の重要性を広く国民と行政に対してアピールしていく必要があります。

本委員会は「アイフレイル」の普及啓発プロジェクトの活動計画書を策定し、活動を開始しています。「アイフレイル」のロゴを設定し、公式ホームページ(<https://www.eyefrail.jp/>)を開設しました。「アイフレイル」の眼科医向けのガイドブックおよび啓発ポスターを作成し、「日本の眼科」2021年9号に同封し、会員へ配布しました。日本老年医学会や日本医学会連合等の他学会と連携するため、第125回日本眼科学会総会において教育セミナーを、第75回日本臨床眼科学会においてシンポジウムを下記のとおり開催しました。

第125回日本眼科学会総会教育セミナー「人生100年時代の健康寿命と眼科医療の役割」

オーガナイザー：山田 昌和(杏林大学)、白根 雅子(日本眼科医会/しらね眼科)

1. 「イントロダクション：健康寿命と眼科医療」
山田 昌和(杏林大学)
2. 「健康寿命の延伸をめざして～特定健診・特定保健指導のしくみと発展～」
津下 一代(女子栄養大学)
3. 「国家戦略としての「フレイル対策」—アイフレイル対策への期待—」
飯島 勝矢(東京大学・高齢社会総合研究機構)
4. 「アイフレイルと健康寿命」
辻川 明孝(京都大学)

第75回日本臨床眼科学会シンポジウム「アイフレイル対策による健康寿命の延伸」

オーガナイザー：飯田 知弘(東京女子医科大学)、西田 幸二(大阪大学)

1. 「健康寿命延伸に向けたフレイルの意義」
荒井 秀典(国立長寿医療研究センター)
2. 「アイフレイル対策による失明予防」
辻川 明孝(京都大学)
3. 「アイフレイル対策によるフレイル悪化予防」
平塚 義宗(日本眼科医会/順天堂大学)
4. 「アイフレイル対策としてのプチビジョンケア」
加藤 圭一(日本眼科医会/かとう眼科医院)

5. 優秀な医学生や研修医を積極的に確保し、眼科医の増加を図る

第二期戦略企画会議では2012年から「眼科サマーキャンプ」を開始し、これまで初期研修医・学生への啓発活動を行ってきました。その背景には2003年度の新医師臨床研修制度の導入以降、将来の眼科医療を担う日本眼科学会の新入会員が大きく減少したことがあります。眼科キャンプ開始後は、眼科を志望する医師が増加したこと、日本眼科学会新入会員の1/3が眼科キャンプ経験者であったことから、初期の目的は達成されてきました。そこで2020年3月の第9回眼科スプリングキャンプをもって最後の開催となることが決定し(新型コロナウイルスの感染拡大のため中止)、質を重視したリクルート内容での事業として再出発しました。コロナウイルス感染症拡大のため、下記の眼科オンラインキャンプを実施しました。

名 称：眼科 ONLINE SESSION FOR NEXT GENERATION 2021

目的：未来の眼科ドクターに向けた眼科の魅力啓発
対象：初期研修医(1・2年目)，医学部学生(5・6年生) 合計150名(先着順)
実施方式：Zoom ウェビナー/YouTube Liveによるオンライン開催
配信日時：2021年6月19日(土)[ライブ配信] 14:00~15:30 [再配信] 18:00~19:30
参加費：無料
募集期間：2021年4月12日(月)~6月12日(土)(オンラインによる応募)
申込者：325名
初期研修医2年目151名，初期研修医1年目67名，
医学部学生6年生64名，医学部学生5年生43名

おわりに

以上，最近の活動状況を報告させていただきました。本委員会が担っている「政策提言活動と啓発活動」は，国の動向を見据えながら中長期スパンで設計し，目標の実現に向けて事業を展開していく必要があります。「政策提言活動や啓発活動を通して，国民，行政および医療界における，眼科医療および眼科学のプレゼンスを向上させ，それをもって視覚に関する健康・医療・福祉に貢献する」という本委員会の使命を達成するため，引き続き日本眼科学会会員の皆様，日本眼科医会と眼科関連団体からのご協力とご指導ほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

日本眼科学会戦略企画会議第四委員会「政策提言活動と啓発活動」
委員長 杉山 和久